

2020年9月16日

報道各位

ラサール不動産投資顧問株式会社

ラサールロジポート投資法人が グローバル公募増資を通じて 485 億円を調達

世界有数の不動産投資運用会社であるラサール インベストメント マネージメント インク(本社:米国イリノイ州シカゴ、最高経営責任者:ジェフ・ジェイコブソン、以下ラサール)は9月4日、ラサールロジポート投資法人(本社:東京都千代田区、執行役員:藤原寿光、以下LLR)がグローバル公募増資を完了し、国内機関投資家、地方銀行、海外機関投資家、および国内一般投資家からの旺盛な需要を背景として、新投資口発行によって485億円を調達したことをお知らせします。これは、2020年初頭に新型コロナウイルス感染症のパンデミックが始まって以来、日本の不動産投資信託(以下「J-REIT」)としては初の*グローバル公募増資となります。

ラサールをスポンサーとする物流施設特化型J-REITであるLLRは、当該公募増資で調達した資金を活用して、東京エリアにあるロジポート川崎ベイ及びロジポート新守谷のほか、大阪エリアにあるロジポート尼崎及びロジポート堺の4つの物流施設の持分を取得します。これらの取得により、LLRのポートフォリオは18物件となり、延床面積にして190万㎡、資産規模にして3,178億円の規模に成長します。

ラサールのアジアパシフィック CEO、マーク・ガベイは、次のように述べています。「LLRでは、日本の良質な物流施設に対する投資家の強い投資意欲に応じています。今後も、ラサール・グループのグローバルな投資運用知識と現場最前線の物流チームの深い専門性を活用したアクティブ運用戦略で、ポートフォリオの成長と強化を継続していきます。」

ラサールの日本法人、ラサール不動産投資顧問株式会社の代表取締役社長、キース藤井は、次のように述べています。「日本においては実物資産としての物流不動産市場の機関化と共に、eコマースの堅調な成長とサプライチェーン効率化の推進が、先進的物流施設に対する需要を引き続き押し上げています。世界的なパンデミックが突き付ける様々な課題にもかかわらず、投資家もテナントも、大規模かつ高機能な物流施設の価値を認識し続けると確信しています。」

ラサールは日本の物流において長い実績を有しており、過去17年間に、236万㎡の新規開発、198万㎡の物件取得、377万㎡の賃貸借の実績を培ってきました。LLRは、2016年2月の上場以来、運用資産残高を倍増させ、企業価値を2.6倍に増加させました。アジア地域において、ラサールは現在、日本、韓国、中国を含む主要市場で40億米ドル以上の物流施設に投資を行っています。

*当社調べ

ラサール インベストメント マネージメントについて

ラサール インベストメント マネージメントは、世界有数の不動産投資顧問会社です。世界規模で、私募、公募の不動産投資活動、負債性投資をしており、総運用資産残高は約650億ドルです(2020年3月末現在)。主要顧客は、世界の公的年金基金、企業年金基金、保険会社、政府関連、企業、その他基金(大学基金他)などで、世界中の機関や個人投資家の資金管理を行い、セパレートアカウント型、オープンエンド型ファンド、クローズドエンド型ファンド、公募証券、エンティティレベル投資等の手法で投資を行っています。また、世界最大級の総合不動産サービス企業であるジョーンズ ラング ラサール グループ(ニューヨーク証券取引所上場:JLL)傘下にあります。なお、ラサール不動産投資顧問株式会社は、ラサール インベストメント マネージメントの日本法人です。詳しい情報は、www.japan.lasalle.comをご覧ください。